

# 關西大學中國文學會會則

## 第一條

本会は關西大學中國文學會と称し、その事務局を關西大學文學部アジア文化専修合同研究室に置く。

## 第二條

本会は中國に關連する各分野の研究の促進と、會員相互の研鑽親睦を目的とする。

## 第三條

本会は第二條の目的を達成するために左の事業を行う。

### 一

機関誌『關西大學中國文學會紀要』の刊行（原則として關西大學図書館のリポジトリ公開のみとする）

### 二

総会の開催

## 第四條

研究会の開催  
その他本会が必要と認めたこと

### 一

本会は左の者をもって會員とする  
特別會員

### 二

本学の専任教員  
学生会員

### 三

本學文學部総合人文学科アジア文化専修の学生及び本学の学部生で本会がその入会を認めた者

### 四

普通會員  
2 1 本学の大学院生

### 四

名譽會員  
本学の名誉教授

## 第五條

本会の役員とその任務  
會長 一名

### 一

會長の選出は特別會員の互選による。會長は会の統轄運営に当たる。

### 二

委員 若干名  
委員は會長が指名する。委員は編集・庶務・会計の各業務を分担する。会計担当の委員は毎年一回会計報告をする。

## 三

役員会は會長・役員をもって構成し、會長がこれを召集する。

## 第六條

役員は次に定める会費を納入する。

## 第七條

會員の任期は一年とし、重任を妨げない。

### 1

普通會員は会費年額三千円とする。

### 2

特別會員は会費年額一万円とする。

### 3

学生会員及び名誉會員からは会費を徴収しない。寄付行為については、総会で報告し、機関誌に記載する。

## 第八條

會員は機関誌に執筆・寄稿することができる。また、本会の行う事業に参加することができる。

## 第九條

この会則の変更は役員会の提案にもとづき、総会の承認を得るものとする。

## 第十條

この会則は昭和四十三年から施行する。

## 第十一條

昭和四十三年四月一日 施行  
平成五年四月一日 第七條再改訂  
平成二十九年十二月 改訂會則施行  
令和三年四月一日 改定會則施行  
令和四年六月一日 改定會則施行

## 関西大学中国文学会紀要執筆要項

### (執筆者の資格)

紀要に執筆できる者は、原則として本会会員にかぎる。ただし、編集委員会が許可した場合を除く。共同執筆については編集委員会と相談のこと。

### (ジャンル)

紀要には、論文・研究ノート・資料・書評・報告・彙報を掲載することができる。

論文は、理論的または実証的な研究成果の発表を言う。

研究ノートは、論文作成の途中にあつて著者の研究の原案や方向性を示したものを言う。

資料は、内外の研究動向の紹介、調査研究の経過報告、独自に収集した研究資料などを言う。

書評は、新たに発表された内外の著書・論文の紹介批評を言う。

### (条件)

紀要に掲載するものは、未発表のものに限る。原文がすでに発表済みの論文を翻訳したものも掲載しない。

### (原稿の長さ)

原稿は、図表・注・文献などをふくめ原則として四〇〇字詰め原稿用紙五〇枚程度とし、一人につき一本を原則とする。ただし、編集委員会が認めた場合はこの限りではない。

### (表記)

論文などは、編集委員会が認めた場合を除き、和文を原則とする。表記は現代かな遣いにより、数字は算用数字、漢字は当用漢字を原則とする。

### (採否)

掲載紙面の都合上、投稿原稿の採用の有無、掲載順序などについては、編集委員会に一任するものとする。

### (発行)

年に一回発行する。原則として電子発行のみとする。

### (提出原稿)

論文・研究ノート・資料の投稿にあたっては、欧文タイトルを添えなければならない。なお、原稿は返却しない。

### (校正)

校正は、執筆者の責任において行うものとする。

### (その他)

上記以外の事項については、編集委員会で検討する。

### (要項の訂正)

この要項の改廃は編集委員会で行う。ただし、総会で承認を受けなければならない。

(令和四年六月一日改訂)

前号目次

陶徳民先生のご退職に際して・・・・・・・・・・・・・・・・沈 国威  
『家礼』と崎門派における神主・横・墓碑・墓誌・・・・・・・・吾妻重二(一)  
台北孔子廟について——台北孔子廟と日本との関連に於ての素描——・・・・・小林和彦(二七)  
彙報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(六三)

How Much Does an Understanding of History Help?: Naito Konan's Reading

of 'Communism' in China・・・・・・・・・・・・・・・・Joshua Fogel ( 1 )

狩野直喜と湘籍学者の交往・・・・・・・・・・・・・・・・刘 岳兵 ( 35 )

佩里远征舰队上の中国水手吴虹玉・・・・・・・・・・・・・・・・徐 以 骋 ( 45 )

洪沢栄一記念財団の中国研究支援活動について・・・・・・・・・・・・・・・・木 村 昌 人 ( 55 )

钱穆宾四先生研究概述・・・・・・・・・・・・・・・・钱 婉 约 ( 65 )

贞观十二年唐太宗诏书的英译问题・・・・・・・・・・・・・・・・顾 钧 ( 81 )

江原素六について・・・・・・・・・・・・・・・・小 島 毅 ( 89 )

In Search of Lost 'Golden Words': Kawaguchi Ekai's

Quest for Mahāyāna Buddhism・・・・・・・・・・・・・・・・KIRIHARA Kenshin ( 97 )

香港的日本研究：回顧與前瞻(1942-2021)・・・・・・・・・・・・・・・・吳 偉 明 ( 109 )

『北京官話全編』の談話分析 「辞去」の場面を中心に・・・・・・・・石 崎 博 志 ( 119 )

表層の物語、深層の「真情」——『天涯客』から『山河令』へ・・・・・・・・池 田 智 恵 ( 139 )

修约外交の地方実践：以鼓浪屿公共租界土地章程修改案为例・・・・・・・・杨 毓 王 海 ( 161 )

雑誌『支那学』が紡いだ近代日中学術交流

——青木正児と胡適との往復書簡を中心に・・・・・・・・・・・・・・・・辜 承 堯 ( 175 )

近代中国学界对日本孔子研究的模仿与移植

——以谢无量《孔子》与蟹江文丸《孔子研究》的关系为例・・・・・・・・张 子 康 ( 209 )

蕭乾夫人で、著名な翻訳家、文潔若について・・・・・・・・・・・・・・・・蔭 山 達 弥 ( 223 )

正反疑問句と“吗”問句の用法分析・・・・・・・・・・・・・・・・张 轶 欧 ( 241 )

2020年度コロナ禍における中国語遠隔授業の成果と課題

——受講生へのアンケートの分析を中心に・・・・・・・・・・・・・・・・桜 木 陽 子 ( 261 )

◆ 編集後記 ◆

中文紀要第四十四号をお届けします。思想、文学、言語の各領域から投稿がありました。今年度文学部アジア文化専修に着任された韓淑婷先生に、初めてご投稿いただきました。◆今号は執筆希望が多く、何人かの方には次号以降への応募をお願いしました。なるべく多くの方に執筆いただきたいとは思いますが、経費や労働力の関係で、ご希望に添うことができませんでした。力不足をお詫びするとともに、皆さんのご理解に感謝いたします。紀要刊行継続のため、経費節減の面では、今号からいくつか新たな工夫を試みております。◆悲しいお知らせが二つあります。昨年十一月、本学名誉教授の萩野脩二先生が亡くなられたという知らせが無い込みでした。享年八一歳でした。突然のことにただ驚き、悲しいばかりです。生前ご縁の深かった先生方に追悼文をご寄稿いただきました。◆令和二年（二〇二〇）六月十日、関西大学名誉教授の坂出祥伸先生が逝去されました。享年八六歳でした。ただ、訃報を知ったのは令和三年七月十四日を過ぎてからでした。親族以外には知らせないでほしいとの坂出先生のご遺志があったとはいへ、一年余の間、何も知らずにいたことに呆然とする思いです。令和三年九月十四日、偲ぶ会（以文館四階セミナールスペース）が開催され、吾妻重二先生の司会進行のもと、多くの教え子、ご友人、同僚のみなさんが、在りし日の坂出先生を懐かしみ、坂出先生の死を悼みました。◆今思い浮かぶのは、坂出先生、萩野先生のお元気だった頃のお姿と、細やかなお心遣いで掛けてくださった、時に厳しく時に優しい励ましのお言葉です。◆謹んでご冥福をお祈り申し上げます。（奥村）

執筆者一覧

韓淑婷	本学助教
和泉ひとみ	本学非常勤講師
永井崇弘	福井大学学術研究院 教育・人文社会系部門教授
岡原嗣春	本学非常勤講師
小山瞳	本学大学院生
奥村佳代子	本学教授